



波
留
濃
日
全



雲英

晴々んとくく乃戸おきあひく
焚田わくくゆとぬ渡一舟さし
くさちゆひり并ねのこもるこ也
ふのふらちり重あうねわはせ
竹槍さくくらふふふらふら
うまのまを牛母元おゆ

二月十八日

荷方

まりくや人さぬく乃伊勢まじ
柄ちる中馬なぐく連重五
山さす月一ゆ五鼓さく雨桐
鑑ながれ火くあさや孝風
まふゆまうくくゆの酔なく昌圭
くもらまゆの果さくく人執筆

ね乃よよ字司のりしりあはく
 ちごりれ跡もるるな河あぞ
 朝朗豆腐を葛よりうきける
 念佛とあきたねあそれ也
 穂蓼生し蔵を住めは俺めて
 糸名を摺乃名よよふか月
 傘乃内近付ふかふ雨の昏よ
 釣鮎おふくおあやくくく

両柄
 重五
 昌圭
 重五
 重五
 荷兮
 重五
 重五
 重五
 重五
 重五

ね乃よよ字司のりしりあはく
 ちごりれ跡もるるな河あぞ
 朝朗豆腐を葛よりうきける
 念佛とあきたねあそれ也
 穂蓼生し蔵を住めは俺めて
 糸名を摺乃名よよふか月
 傘乃内近付ふかふ雨の昏よ
 釣鮎おふくおあやくくく

荷兮
 昌圭
 兩柄
 重五
 昌圭
 重五
 重五

三月廿四日水亭へ

且藁

あし取や畑うのふハ重さう	わさうらうとむさうぞれ鐘	ま清張節借かまはし袴忌	口とくぐふ清まかろ	和風うたきぬ程の酒れ破	責のふくふ家出いお月
野水	荷兮	越人	羽皇	執事	

大牟^ニ念佛とありて善養酒棚 且景

とわらや無我^ニの隙や 越人

のうらみの業^ニの拍^ニ起^ル 荷兮

ま^ニち^ニ廿日^ニの^ニ来^ル粉^ニ 羽皇

一^ニ和^ルに宿^ル馬^ノ寺^ノ也^ニ 何水

こ^ニ魂^ニま^ニつ^クに^ニら^ニま^ニる^ニ月 且景

陽^{カケ}炎^ノの^ニあ^ニま^ニる^ニ夫婦^ノ 越人

と^ニ冊^ニ甜^ニく^ニに^ニ哥^ノの^ニき^ニく^ニ 荷兮

田^ウと^ニお^ニく^ニに^ニお^ニま^ニる^ニ 羽皇

力^ノの^ニゆ^ニを^ニに^ニぶ^ニく^ニ中^ノ子^ノ 何水

健^{サナ}や^ニ井^ノの^ニあ^ニる^ニれ^ニた^ニゆ^ニ 且景

ま^ニび^ニの^ニあ^ニる^ニ雪^ノの^ニあ^ニく^ニ 越人

又^ニつ^ニま^ニる^ニに^ニ廿九日^ノの^ニ月^ノの^ニ心^ノ 荷兮

君^ノの^ニほ^ニく^ニる^ニ氷^ノの^ニし^ニけ 羽皇

三月廿六日 且藁う田家子

とゆまう

四水

蛙のこきまゆゆくと三葉足ん

額よりわらわたりか雨のそり 且葉

巖^ニ息ふ岩木乃鼻ぶ宿り沙 紙人

まどくく人をさうか馬乃子 荷兮

まぐろふ渡りの舟乃月新り 冬文

芦乃折穂を招く傘一の端 執筆

磧ぎに子施飯鬼入僧の集り
 岩乃わいしり蔵と申る里
 多乃日も瓶焼やし煙乃
 ひがぶきしりも旅乃一はよ
 尋らる坊主の住まば程中
 解しやさうし校じし少松
 今宵の更しりしやいせ
 月十九日 荷兮室しん

且景
 里水
 荷兮
 越人
 里水
 冬文

嘆まきの菊よわしき白露ぞ
 林乃和乃よらふか 頌
 初乃淡色よけりし火を打ぬ
 別乃月よなまこわしるを
 沈乃花田の宮しり唐輪し
 長しゆく道のまよしはし
 永し思しりしりしりし
 貴乃子 華しりし五月の中

越人
 且景
 頌
 冬文
 荷兮
 且景
 里水
 荷兮
 越人

紹鷗トビの瓢ヒヤウをりりてまはる
 連舟の舟もつらふりし
 瀧壺ツルの葉押まぐさ言コト
 名苔ナモクの葉ハをささぐ
 じりりキヌの葉をささぐ
 蓮二枚もむらさか色
 朝舟の路あはれに夢化ユメカ
 暮うらを送あまぬく月
 豊水

舟の舟と煙の白舟は細入よ
 多羽の漂わらぶ多ひ
 ありあけの舟をささぐ
 舟く一の舟の舟も
 舟の舟水波を起く
 餅と食けいよよ代
 山々所所の舟は舟
 舟の舟をささぐ
 荷兮

追加

三月十九日舟泉亭

越人

山吹のちびやふゆのこけきや

蝶ふりやうゆめりるる

ききうがや解酒まき雪

行幸くくよ洗ふ玉器

朔日を鷹よの鍛冶のいり

月をさうの川やわき

舟泉

聴雪

蝨鬘

荷今

執筆

春

昌隆乃ねんをぬ御代のま 利重

元日の本坊乃ね競馬定伊し 重五

初まの遠里牛れをふ日か 昌主

ヶとわま海をがらちを春好息 雨桐

門をた芍薬園の香さむし 舟泉

鯉の音水か乃周く栲白し 羽笠

舟くの小ねをちわねをり 且藁

暁の久頼牡丹新よひきり
 橋より次九日星の睡りぬ
 星よりくかきまぬえは雲の色
 朝日二合柳乃動く白いふ
 之のくゆ入来しきまゝか
 芥福くく三けく風をさ瓢水
 のくまふのけく
 杜園
 厚文
 春霞
 聴雪
 老守
 同
 曇柔

みくとも白雲いかり
 古地や蛙花むら乃
 傘一張り睡り胡蝶のや
 山や花地根く乃御
 花よりくかきまぬえは雲の色
 契人
 芭蕉
 重五
 亀洞
 越人

春野一吟

足跡の橋を曲ふ菴二月
 林扉寺かたれぬり
 杜園
 老凡

援まよて採乃遲きぬ
荷子

餞別

藤乃花きく山さく別か
越人

山畑のまきつふく山夕日
重五

蚊いんよ病くも夜半ぞ
同

まの糸

夏

江のくまの山鳥の尾ハ長し
九白

郭公さゆりく焼くわる夜水
孝凡

かつこも板金の肖戸の二里家
越人

さきくささ葉かたれ柳の月洞
社園

み竹入くくたなぬ雀ん
亀洞

傘をさすくまぐさぬか和か
舟泉

武蔵坊さくくぬ

よどかきわくくゆくさの夜川
高露

まの坂の東くさくゆりく
く

馬くもふくれしりりる骨 聴

老冊日知足之足常足

夕ふし雜水あつとさ葉屋哉 越人

等一木の微雨こほきて鳴蚊 柳雨

けきぬるさし系中昏けり 慶文

萱草一い値ふ若き花のさ 荷子

蓮池のよとりさる侍さる 全

暁のな陰さる金ね遅きや 昌圭

夏川乃青よ宿る所中管路部 重五

譬喻品三界無安猶如火宅

こいふさ

六月乃行ぬむ居る臺らん 越人

秋

宵戸の細りしひ貴さる 且臺

負さるる玉

玉まのま桂ま一まじまくまの 越人

丁まきくまきこ一雁入る夜も
雨桐

きわく一人をせむし月人
芭蕉

山寺一雨はくも月夜武
越人

凡く家もの面も水の月
望水

八鴻をまきり屏風の繪を
全

具足よく顔のくまじ月足舟
全

詩志

らね飯を有ききしとみあふん
荷子

閑居増戀

秋しし琴柱もづきく雅め夜
荷子

の鳥ちとをこ一こんよ茶くり
舟泉

冬

馬とぬと牛ハク名白村とこれ
杜園

芭蕉をみと寄しゆつこへ
大垣住

栗まきふ旅病子故屋を忘と
知行

雪のく舞の子おあふん
昌碧

馬をくくりかじらふ宮のりし
芭蕉

行燈の燐もどきささるる
上人

芭蕉翁をうらみそふ
何

二つは氷をうらみおん
杜園

隠士よりかきおん
室

わたりしききおん
荷兮

貞享三丙子仲秋下院

書林 京堀川通錦小路上町
西村市郎右衛門

芭蕉翁門他書目録

子卯の里 其角輯 二冊 丙寅記 凡瀑集 一冊

續子卯の里 日輯 二冊 新の家 其角輯 一冊

花法見 日輯 二冊 續花法見 湖十輯 二冊

楚志袋 嵐雪輯 二冊 志乃日 越人 一冊

蛙あし袋 芭蕉其角
素堂仙化輯 一冊 柿 宗瑞
咫尺 一冊

新二百歌 其角輯 一冊 長楽寺千句 大石 一冊

皮袋招 凉庵輯 二冊 千載堂百分仙集 大石 五冊

挑諧小傘 初心仕候
調室殿々身集記 一冊 雑語書後目録 三冊

